

一般的な城下町とは異なる、刈谷市の城下町

- 刈谷城の周りには、堀ではなく田がありました。足場の悪い田があることで敵から攻められにくいと、堀の代りとなったと考えられます。
- 刈谷城下町の道は、直線ではなく、地形の起伏があり、道は曲がっています。城を守るために、地形を生かしていると考えられます。
- 城の位置や城周辺に建てられている寺の向きから、刈谷城は南から北へ移されたと考えられています。

歴史を踏まえた、市民によるまちづくり

- 都市の歴史や文化は、そこに住む人の歴史や文化であり、人々の誇りです。
- 歴史を踏まえた都市整備が行われるためには、どのように景観や歴史が作られてきたかをみて、言語化することが大切です。
- まちの歴史を踏まえずにマンション建設などが行われることがありますが、歴史的景観の破壊を住民自ら行ってはいけません。
- 歴史的景観を損なう建物に対して、景観法などにより、規制をかけることができます。
- 刈谷市で城下町の風情を復元する際には、時間をかけてまちづくりを行い、文化を継承してほしいと思います。



瀬口 哲夫 先生
(名古屋市立大学名誉教授)

専門 都市景観計画、歴史的遺産を活用したまちづくり等

経歴 豊橋技術科学大学建設工学系助教授、名古屋市立大学芸術工学部教授などを経て、平成23年4月より名古屋市立大学名誉教授。刈谷市都市計画審議会会長、愛知県文化財保護審議会会長、名古屋市歴史的風致維持向上計画協議会会長等、都市・景観計画に関する各種委員会座長、委員等を歴任。



かりや景観れぽーと

今回の景観れぽーとは、平成27年10月に実施した「かりや景観づくり講座」についてご紹介します。今年度は、「歴史的な景観まちづくり」をテーマとし、当日は名古屋市立大学名誉教授の瀬口先生を講師としてお招きし、景観まちづくりに関する講義を実施しました。また、平安時代から継承される歴史や文化を活かしたまちづくりを進めている宇治市の『中宇治地区』で景観まちあるきを開催しました。



歴史の趣が感じられるまちづくりに取り組んでいます。

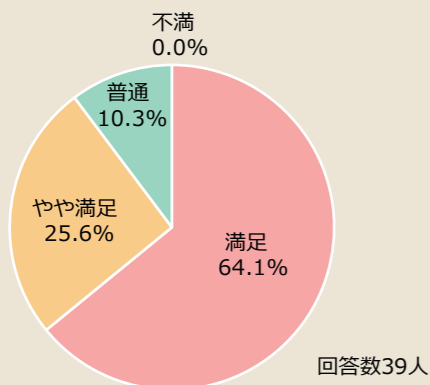
宇治市 中宇治地区



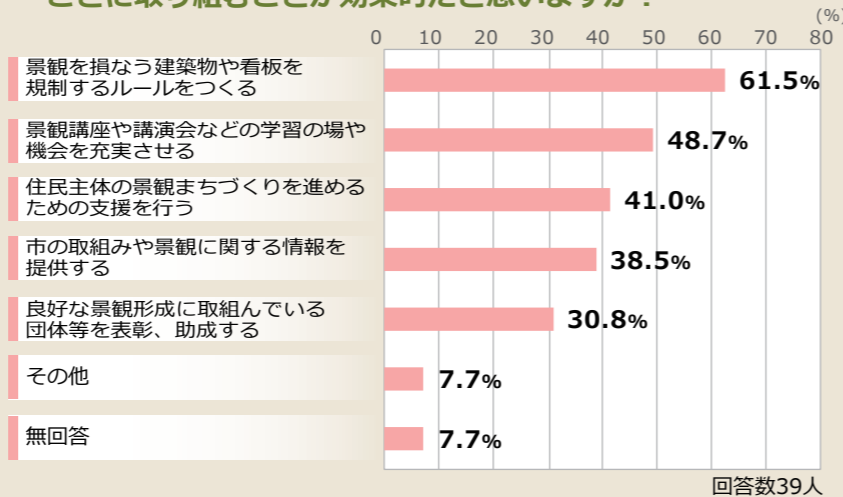
かりや景観づくり講座への参加者の声

かりや景観づくり講座終了後、参加者の方にアンケートのご協力をいただきました。ここではその結果の一部をご紹介します。

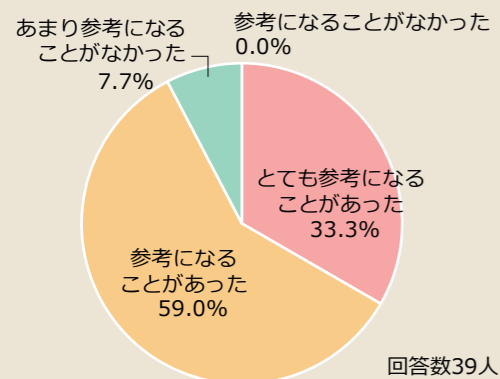
Q1 講座の内容はいかがでしたか？



Q3 景観まちづくりを進めていくには市(行政)はどのようなことに取り組むことが効果的だと思いますか？



Q2 今後の景観づくりの参考になることはありましたか？



Q4 参考になったことやご意見をお聞かせください。

- ・地域の歴史を大事にすることを学んだ。
- ・講座を受けてもっと刈谷市について知ることが大切だと思った。
- ・平等院の背後のマンションなどが目に入り、それが景観としては残念だった。
- ・刈谷市にも亀城公園を中心に歴史を身近に感じるものがあると思う。
- ・刈谷市として地域ごとにどういった景観を保存していけばよいか考えさせられた。
- ・刈谷市全域で行うのではなく、まずスポット的に決めていけたらと思う。

かりや景観づくり講座

市民の皆さんに景観形成に対する意識をより高めてもらい、みなさんの手による景観まちづくりや、良好な景観の形成につながる機会としていただくことを目的に、平成15年から毎年実施しています。

歴史が積み重なり、今あるまちの形になっています

平等院周辺のまちは、平等院が創建された 1052 年以降から整備が始まり、碁盤目状の町区が造られ、多くの貴族の邸宅が建てられました。

まちあるきでは平安時代、中世の道を継承する道路を歩き、まちの様子を見学しました。



幅広い年代の伝統的な木造家屋が残っています。



ボランティアガイドの方にまちなみをご案内いただきました。

茶業で有名な宇治は、江戸時代以来の茶師の長屋門、明治時代の茶商の屋敷や工場、茶農家の町屋などの建物が継承されており、それらの建物を利用した茶商店が立ち並んでいます。



歴史をふまえたまちづくりをしていくために

まちなみの歴史的な景観を保全するために、宇治市では、建物の色やデザイン、高さに関する基準を定めた景観計画があります。

また、歴史的なまちなみ景観に配慮した建物等の新設や改修を行う場合に工事費が助成される制度や、住民同士でまちづくり協議会を立ち上げ、景観に関する基準をつくる制度を宇治市まちづくり・景観条例で設けています。景観を損なう建物等の建設を規制するだけでなく、住民主体でまちづくりを行う際の助けとなる仕組みを活用し、行政と住民が協働してまちづくりに取り組んでいます。



宇治市職員の方から、歴史まちづくりの取り組みを始めたきっかけや景観を守る制度について、説明をしていただきました。

平等院が世界文化遺産に登録された後、その背後に高層マンションが建設され、平等院からの景観が損なわれてしまいました。当時は景観を守るための制度はありませんでした。

そのため、住民の要望を受け、宇治市都市景観条例の施行をはじめ、良好な景観形成への取り組みが始まりました。



平等院からの景観を損なう2棟のマンション

歴史的な景観をまもる、みちの工夫

電線は地下に埋められているため、眺望を妨げません。

石畳や、土の色に近い色彩の舗装がされ、連続的なまちなみが確保されています。



ゴミ捨て場にも目隠しがされ、趣あるまちなみに溶け込んでいます。

歴史的な景観をまもる、たてものの工夫

Before



After



現代風になった建物を、歴史的なまちなみに調和するよう、建設当時の意匠に改修した建物です。外壁は茶色にし、建具を木製にするといった工夫をすることで、周囲の木造家屋との統一感を持たせています。



◀屋外広告物は木製の看板や和風ののれんが活用されています。



▲建具や外壁を木製の格子で覆い、落ち着いた色彩にしています。



▲伝統的な家屋は、商店や住居として活用しながら、保存されています。